



富士橋(建設中)

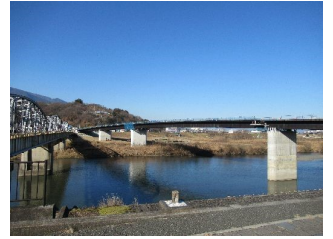
かけはし

第183号
2022年12月・
2023年1月号

発行：峡南教育事務所
教育支援スタッフ(地域教育担当)

南巨摩郡富士川町鯉沢771-2
TEL:0556-22-8154
FAX:0556-22-8144

HPでも御覧になれます。
[https://
www.pref.yamanashi.jp/
kyoiku-mk/index.html](https://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-mk/index.html)



建設中の富士橋(右)と現在の富士橋(左)です。

目次:

峡南地域 異校種連携・子育て学習会	1
関東甲信越静社会教育 研究大会山梨大会 開催 山梨県公民会活動研究推進 大会 南部町発表	2
青洲高校 瑠璃店開催 峡南地域 二〇歳を祝う 式典行事新名称	3
いきいき教育地域人材 活用事業 鯉沢小学校 市川南小学校	4

2023



明けましておめでとうございます。かけはしの取材を通して、新たな「出会い」と「経験」をさせて頂きました。

皆様の地域教育に寄せる「熱い思い」を肌で感じ、私自身、少しずつですが成長できたかと思っています。

本年もよろしく申し上げます。

令和四年度 峡南地域 異校種連携・子育て学習会
「ネット・ゲーム依存の現状と対応」
久里浜医療センター 名誉院長・顧問 樋口進氏

令和四年度 峡南地域 異校種連携・子育て学習会が、一月一八日(金)に身延町総合文化会館ホールで開催されました。今回の講演は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響もあり、三年越しの開催となりました。



講師の樋口先生は、山本純司会長が、日常の中で感じていたスマートフォン、ゲームの使用状況を紹介します。「今日の話は、皆様方も共感を持った部分だけを、ぜひ大勢の方に伝えていただけると、広い輪が繋がっていくと思う。また、ゲームの有効な対応策が練られたら良いと思う」と話しました。



講師の樋口先生は旧鯉沢町の出身で、

講演に先立ち、山本純司会長が、日常の中で感じていたスマートフォン、ゲームの使用状況を紹介します。「今日の話は、皆様方も共感を持った部分だけを、ぜひ大勢の方に伝えていただけると、広い輪が繋がっていくと思う。また、ゲームの有効な対応策が練られたら良いと思う」と話しました。講師の樋口先生は旧鯉沢町の出身で、

は、かけはし号外でお伝えします。講演会の感想より(原文のまま)以前からネット依存の専門として、第一線で活躍されている樋口先生の話聞いてみると強く思っていました。今日は、その話を身延で聞けるということ、とてもありがたかったです。内容はとてもわかりやすく、具体的なものを示しながらの講義でしたので、ネット依存、ゲーム依存に対する理解(これからどう対応していくことが有効なのかを含めて)を深めることができました。本当にありがとうございました。



今日の研修は大変参考になりました。ありがとうございました。

ネット・ゲーム依存について、改めて考える機会となりました。ネット・ゲームに上手に付き合っていけるよう、子どもたちとも話し合いをし、正しい使い方を知らせていくことを忘れないようにしていきたいと思えます。また、自分たちのスマホの使い方、もう一度見つめ直して

いきたいと思えました。ネット・ゲーム依存の問題は今後大きな社会問題となっていくと思いますが、国としての策が練られていないことに驚きました。状況を改善するためには、家族の協力が不可欠なのですが、それが得られない状況が多いことが問題であると思います。学校教育の中でできることを考え、実践していけたらと思います。

保育所に勤めています。幼児期から、(スマホ)ゲームに没頭している子どもが見受けられている状況です。実際問題として、スマホを子守り代わりにしている...という保護者に対して、警鐘を鳴らしていきたいと考えています。

第五三回 関東甲信越静
社会教育研究大会山梨大会開催



甲信越静社会教育研究大会が甲府市で開催されました。

社会教育は、学校や家庭以外で広く行われる組織的な教育活動のことで、「社会状況の変化に応じて柔軟に編成された教育内容を年齢や職業等が様々な人々が中心になって組織的に営まれる教育活動」とされています（山梨県社会教育委員の手引きより）。

新型コロナウイルス感染症対策を徹底する中で、参集型（全体会のみオンライン併用のハイブリッド方式）での大会となりました。嶽南地域からは、実行委員・協力委員として前日準備から大会当日までの三日間に、五町から延べ九〇名の方が大会運営に関わりました。県社会教育連絡協議会会長である市川三郷町社会教育委員の塩島明美さんが実行委員長および全体会部会部長を、身延町社会教育委員の千須和繁臣さんが分科会部会副部長、第五分科会会長を務めました。一日目（一〇日）は、全体会が行

われました。開会前に甲府商業高校ソングリーダー部がアトラクションを行いました。軽やかなダンスに、会場は一気に盛り上がりました。

開会行事では、塩島実行委員長が主催者挨拶を行いました。記念講演として、宇津木妙子氏（元ソフトボール女子日本代表監督）が、「夢の実現、努力は裏切らない！」と題して話をしました。その後「新たな生活環境の中での社会教育の在り方を考える」を社会的包摂に向けた社会教育の果たす役割」をテーマ



にシンポジウムが実施されました。

二日目（一一日）は、「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」「生涯学習」「社会的包摂」の五分

野に分かれて、分科会が行われました。各会場でテーマに沿った事例発表、情報提供、研究協議が行われました。関東甲信越静の社会教育委員・社会教育担当職員及び社会教育関係者、生涯学習・社会教育に関心のある方が、全体会に約六七〇名（オンライン参加含む）、分科会に約四七〇名参加しました。

社会教育に関する他都県の事例や最新の情報を得るとともに、各地域での社会教育推進の取り組みに生かせる学習の機会となりました。

令和四年度 山梨県公民館活動
研究推進大会 南部町発表

「公民館は、市町村その他一定区域内の住民のために、実的生活中に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行い、もつて住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的」としています（社会教育法）。

一二月一五日（木）「公民館がなくなぐ、人・もの・こと」を研究主題に山梨県公民館活動研究推進大会が山梨市民会館で開催されました。この大会は、「県内の公民館関係者、社会教育関係の職員が一堂に会し、各地域における公民館の活動状況や活動成果を発表し合い、公民館活動を取り巻く今日的課題の解決を目指して研究討議を行う」ことを趣旨としています。県内から各市町村教育委員会の担当者、公民館関係者が参加しました。

全体研究会の事例発表では、中央市と南部町が発表を行いました。南部町教育委員会生涯学習課が行った事例発表「南部町の公民館活動について」の概略を紹介いたします。

はじめに南部町の概要と、南部氏についての動画が上映されました。南部町公民館の今年度の重点



目標は、「地域に根ざした特色のある公民館活動をはかる」「明るく住みよい町づくりを目指すし、ふるさとづくりを推進する」「公民館が、生涯学習推進の拠点になろう」と、「現代的課題の検討」です。

公民館活動として、「花いっぱい運動」「町内一斉こみゼロ作戦」「公民館講座（パッチワーク、ガーデニング、陶芸、羊毛フェルト、おやこ料理教室等）」「貸館（中央公民館）」を紹介しました。

各活動は地域の交流、生涯学習のきっかけ作りの場として機能しています。一方で公民館が抱える問題として、現在生涯学習課で管理している施設の老朽化、将来に向けての維持費等があげられました。

新型コロナウイルスの影響等、課題も山積していますが「コロナ禍でもできることを頑張る」「講座といったソフト事業は、ちよつとしたコラボにより、魅力的なコンテンツが生まれることがある」「難しい問題だが、ハード面の個別施設計画において、建物が必要なのか考える時期が到来している」として発表を終わりました。

二つの事例発表、その後行われた情報交換、指導助言は、県内各地の今後の公民館活動の参考になったと思います。



青洲高校

瑠璃店（青洲マルシェ）開催

一月三日（木）文化の日、山梨県立青洲高校で「瑠璃店（青洲マルシェ）」が開催されました。名称の瑠璃店は生徒からの公募で決定しました。

このイベントは、「知識・技能等育んだ学力を活用し、『学び』の成果を対外的に発信する機会とし、地域との交流及び連携を深め、新たなつながりを創出する契機とする」「地域から愛され、信頼され、応援される学校として成長する機会とする」「取組を通して、生徒会活動、生徒の主体的な活動を活性化させる」ことを目的としています。増穂



部・青洲学（主に山梨県の地域の防災と峡南地域の歴史・文化・産業・自然についての学習）の展示など、日頃の学習成果の発表と交流の場が多く設けられました。

当日は秋晴れのもと、保護者や小中学生、地域の方など千人を超える多数の来場者がありました。物販販売や製作体験、ゲーム参加、ステージ発表、文化

商業高校が行っていた「増穂デパート」の伝統を引き継ぎながら、今年度からの開催となりました。

当日は秋晴れ

体育館では、吹奏楽部の演奏、応援団の迫力ある演舞といった日々の活動の成果、またクラスで取り組んだダンスが披露されました。

屋外に設置された普通科ブースでは、「ワクワク実験室」として、スライム・石けん作りに来場者の皆さんが挑みました。スライム作りを行った小学生は、「楽しかった」と話していました。

商業科ブースでは、地域の特産品や県内の商業系高校が開発したオリジナル商品の販売が行われました。どの店舗も盛況で、終了時間前の完売が相次ぎました。

一や、ダンスや遊びを通して異文化を楽しむ交流スペースが設置されていました。校内では華道部の作品が展示され、華やかな雰囲気でも来場者の皆さんをもてなしました。また修学旅行や土木工学科の学習成果の展示も行われていました。



峡南地域 二〇歳を祝う式典行事新名称

明治時代から約一四〇年間、日本の成年年齢は二〇歳と定められていました。民法の改正により、令和四年四月一日から成年年齢が二〇歳から一八歳に引き下げられました。それに伴い各自治体でも成人式について対象者や新たな名称等について話し合いが行われてきました。

峡南地域の各町は、一月七日（土）から九日（月）にかけて、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底して、従来の成人を祝う「成人式」から名称を変更した二〇

- 歳を祝う式典行事が行われました。各町の「成人式」に変わる新しい名称を紹介します。
- 市川三郷町 「二十歳（はたち）の集い」
 - 富士川町 「二十歳（はたち）の誓い」
 - 早川町 「二十歳（はたち）のつどい」
 - 身延町 「二十歳（はたち）の集い」
 - 南都町 「はたちのつどい」
- 二〇歳を迎えた皆さんの門出をお祝いするとともに、地域の若い力として益々の活躍を期待しています。

工業科ブースでは、測量体験と測定機器を使った宝探し、溶接の技術を使ったスマートフォンスタンドの製作体験、セメント鉢の絵付け・インボス加工体験等が行われました。来場者の皆さんは、生徒からの説明を受け、オリジナル作品の製作に励んでいました。皆さん出来上がった作品を手に喜んでいました。スマートフォンスタンド製作体験を行った、



「お兄さんが手伝ってくれなかつたらできなかつた。初めてだったけど上手にできました」と感想を話してくれました。中庭には、ゲームに参加

は、「青洲高校初の試みで、生徒も準備段階でわからないことが多かった。その中で、生徒が自分たちでアイデアを出し合い、それぞれが頑張ってくれた。たくさんの方が来てくれ、応援してくれて瑠璃店が開催できたことは一つの成果ではないかと思う。来場したお客様が楽しんでくださり、笑顔の方がたくさんいて、今までなかなか感じることができなかった地域の方との繋がりや応援してくれていることが目に見えてわかった機会になった」と話してくれました。

展示、販売、体験、参加と多数の催しがあり、来場者の皆さんの笑顔が各会場で見られました。今回の瑠璃店開催は、青洲高校の歴史の新たな一ページとなるイベントだと感じました。そして地域との交流をより深める機会にもなったと思います。

いきいき教育 地域人材活用推進事業

本事業は、児童生徒に「生きる力」を育くむため、地域在住の専門家・社会人を学校に招き、各教科等の指導計画に則り、担当指導教師のもと、専門的分野の講義や実技などを通して、学校教育の活性化に資することを目的としています。

峡南地域では、以前よりこの事業が盛んで、今年度は二二校で実施され、講師は延べ四三名を数えます。

今回、鵜沢小学校と市川南小学校の授業の様子を紹介します。

鵜沢小学校

一月四日(金)三校時に六年生を対象とした箏の授業が行われました。講師として、原田眞弓さん、岡崎紀子さんの二名が、箏の演奏について指導を行いました。

児童の皆さんは、休み時間から、箏の練習に取り組んでいて、努力を感じました。一月二日(土)に行われる、「ふれあい発表会」で、発表を行う予定になっていて、その取り組みのために、いきいき人材活用事業を利用して、学習を行っ



ています。「さくら」「花かげ」の二曲について、熱心に学習を進めていました。講師の先生に手拍子でリズムをとってもらいながら演奏をしたり、難しい部分を繰り返し練習したりと、一四名の演奏が一致するよう、丁寧な指導を受けていました。児童の皆さんは、真剣に譜面を見ながら、演奏に取り組んでいました。正座で演奏するため、時々全員で足を伸ばす時間を取りながら、一時間の練習を行いました。



授業のまとめとして、講師の先生が、「六年生がふれあい発表会で演奏する」という伝説を引き継いで演奏ができていた。前回よりも上手になっていった。難しい曲を選んでしまったかなと心配していたが、ここまでできるようになってきた。さすが鵜沢小の六年生だと感じた」と評価をされていました。

ふれあい発表会での、六年生による箏の発表は、今年で一〇年を数えるそうです。鵜沢小の伝統を引き継ぐべく、真剣に取り組んでいる姿、雅な音色はとても素晴らしいものでした。発表会での雄姿が楽しみな授業でした。

市川南小学校

一月二六日(金)三・四校時に一・二年生(一二名)を対象に、折

り紙を使った図工の授業が行われました。講師として赤池初子さんが、指導を行いました。赤池さんは、毎年七月と十二月に、季節に合わせた折り紙の指導と、折り紙で作った紙芝居の上演を児童の皆さんに行っています。児童の皆さんが、毎回楽しみにしている授業だそうです。今回はクリスマスに向けて、クリスマスリースを作成しました。

授業のはじめに赤池さんは、黒板に折り紙のクリスマスリースを三つ掲示し、違いを児童の皆さんに質問しました。児童は「星の色」「大きさ」「ベルが付いている」等と活発に答えました。一つは九五歳のお婆ちゃんを作ったと聞き、皆さん驚いていました。

「もっと全体を見て欲しいな」という赤池さんの言葉に、「リースのリングの部分の色が違う。緑と赤、こっちは黄緑と緑」と配色の違いに気づきました。緑と赤はクリスマスらしいが飾りが目立たない、黄緑と緑はクリスマスらしくないが飾りは目立つと説明を受けました。児童は、自分が作りたいリースをイメージしながら、どちらのリングの配色にするかを選んでいました。



赤池さんは、難しいところは、特大の折り紙を使用するなど、折り方をわかりやすく説明していただきました。



かりやすく実演しながら、説明しました。児童の皆さんは説明を思い出して、「こうやって」「あと少してできる」「こうかな?」など口にしながら折り紙に集中して取り組みました。わからないところでは、「ここが難しい」と赤池さんや先生、友達に伝え、折り方を確認していました。困っている友達には、「手伝おうか?」と声をかけて協力して作品を作りました。

リースのリングが出来上がると、次は装飾です。赤池さんが用意した折り紙の鈴・サンタクロース・ロウソク、星や雪だるまのシール、児童が自身で作った星を、バランスを考え工夫を凝らしながら貼り付けました。完成すると児童の皆さんから喜びの声が上がりました。素敵なお友達が出来上がり、学年ごとに記念撮影を行いました。最後に赤池さんが折り紙で作った、紙芝居を鑑賞しました。

今回の折り紙工作の授業を通し、一つの作品を完成させる喜び、他者との協力、思いやりの心など、様々な学びが深められたと思います。完成したクリスマスリースはしばらく教室に飾り、終業式までには児童が持ち帰り、家庭で飾ることにしているそうです。